

# リニア駅周辺整備基本構想

【概要版】

平成27年6月 飯田市

## はじめに

リニアの整備効果を最大限引き出し、長野県の南の玄関口及び三遠南信地域の北の玄関口にふさわしいリニア駅とするため、「リニア駅周辺整備基本構想」を策定することとしました。

本構想は、国、長野県、飯田市のこれまでの検討経緯を考慮するとともに、リニア駅周辺整備を進めるに当たって、各主体間共通の目標となる基本構想と具体的な取り組みに繋がる方針を明らかにします。

## 目指すリニア駅周辺の姿

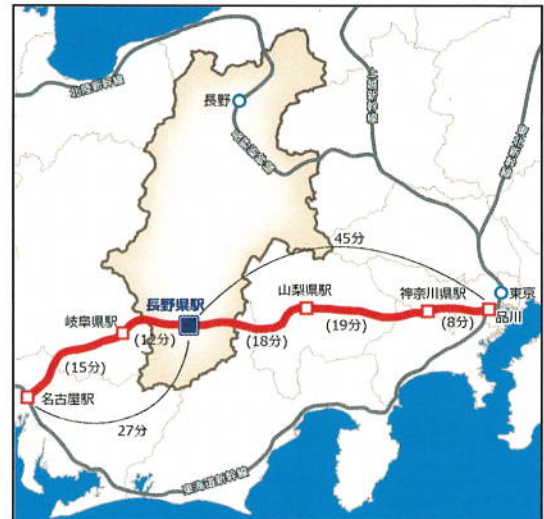
信州や伊那谷の持つ豊かな個性（豊富な自然や美しい風景、文化、伝統など）を大切にし、さらに高めることで世界を惹きつける魅力を育み、リニアを通じて世界へ発信していきます。

リニア駅を含めた駅周辺地域は、このことを実現していくための空間であることを念頭におき、駅周辺整備に当たっては、県内の各地域をつなぐ「広域交通拠点」として“高度なトランジットハブ”の実現を目指すとともに、長野県の新たな南の玄関口として信州らしさ・伊那谷らしさが感じられ、多様な交流の要となる地域を目指します。

〔基本的な理念〕

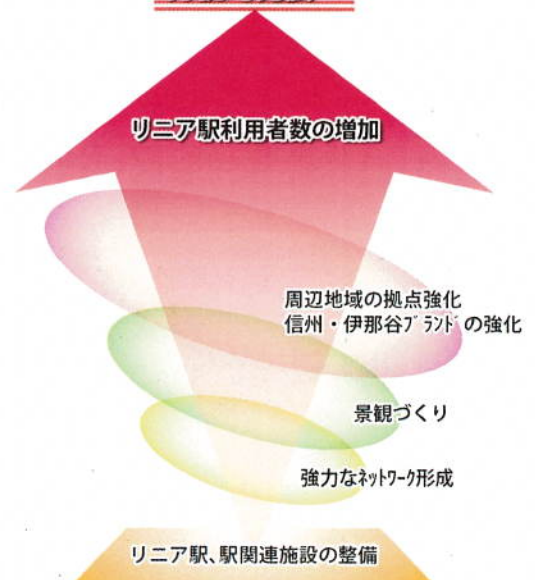
ローカル グローバル  
**信州・伊那谷の個性で世界を惹きつけ、**  
 ゲートウェイ  
**世界へ発信する玄関口**

〔リニア中央新幹線の路線とその所要時間（推計）〕



〔リニアを活かした持続的発展の考え方〕

**持続的発展へ**

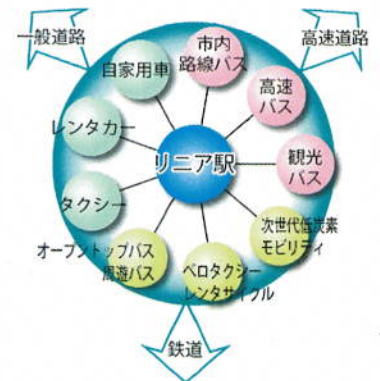


## 《基本方針 1》 来訪者の移動を支援する“高度なトランジットハブ”を形成する

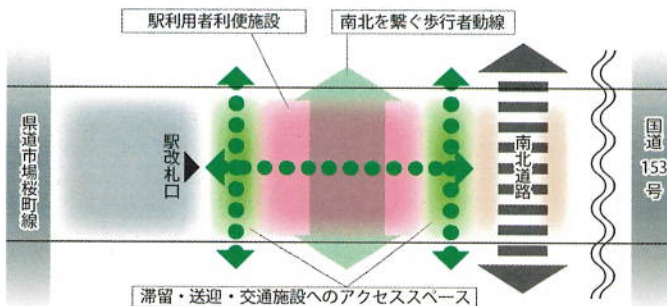
長野県の南の玄関口として、リニア駅利用者が複数のアクセス手段を有効に活用できる効率的でコンパクトな施設整備を行う。

- 取組 1 利用者の利便性を高める多様な交通手段を確保する
- 取組 2 効率的でコンパクトな交通広場と駅利用者利便施設を計画する
- 取組 3 リニア駅の利便性を高めるパーク＆ライド駐車場を適切に確保・配置する
- 取組 4 地域のコミュニケーションの場ともなる、信州の魅力発信施設を計画する
- 取組 5 地域の住みやすさに配慮した駅周辺整備を進める

〔多様な交通手段のイメージ〕



〔リニア駅高架下の活用イメージ〕



〔魅力発信施設の機能例〕

観光案内施設



(長野市観光情報センター (長野駅))

室内型交流施設



(遠山観光協会 HP)

## 《基本方針 2》 駅勢圏の拡大に向け、交通アクセス及びネットワークの強化を進める

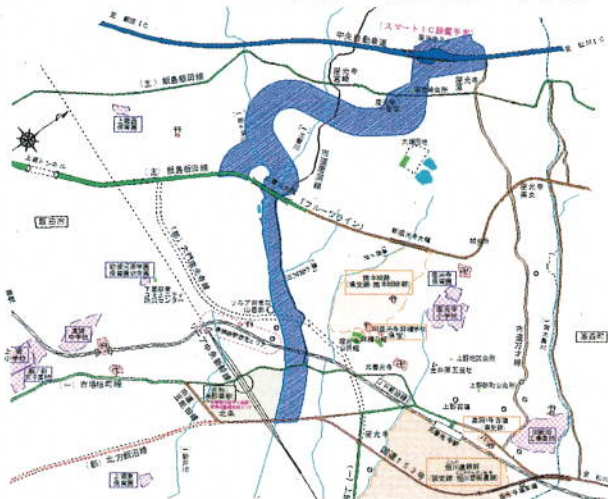
長野県全域へリニア効果を波及させるため、高速道路、鉄道、一般道路等を用いてリニア駅から各地域の拠点等へアクセスできる強力なネットワークを形成する

- 取組 1 中央自動車道との連携を強化する
- 取組 2 各地域の拠点等へのアクセス機能を向上させる
- 取組 3 乗換新駅の設置により JR 飯田線への乗換利便性を高める

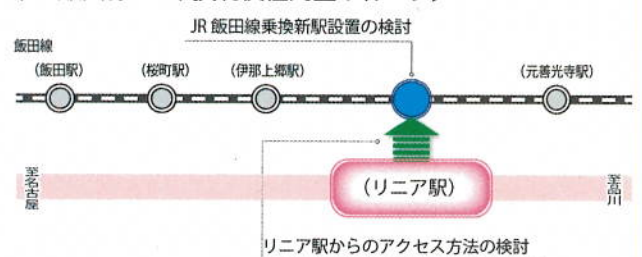
〔広域道路ネットワークの構築イメージ〕



〔長野県駅～座光寺 SIC (仮称) の新設道路ルート帯図〕



〔JR 飯田線への乗換利便性向上のイメージ〕



## 《基本方針3》 信州・伊那谷らしさを感じられる景観づくりを進める

周辺のまちづくりも駅周辺整備と一体的にとらえ、開発をコントロールし、原風景を備えた景観づくりに取り組む。

- 取組1 信州・伊那谷らしさを感じられる駅空間を形成する
- 取組2 山並みや里山の風景を見て感じられる「見晴らし広場」を計画する
- 取組3 地域の豊かな景観を眺望できる「眺望の丘」を計画する
- 取組4 周辺のまちづくりと連携し、伊那谷らしさを感じられる景観を形成する
- 取組5 環境に配慮した駅周辺整備とまちづくりを進める

〔信州・伊那谷らしさの例〕

木造施設



ひさかた和紙

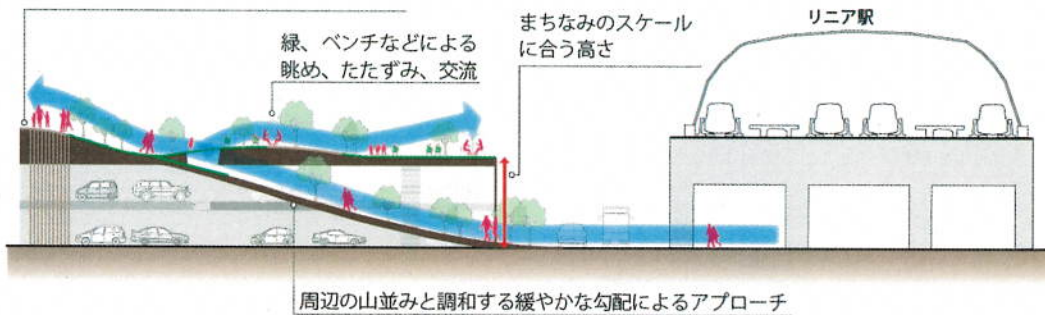


水引工芸



〔見晴らし広場のイメージ〕

周囲の風景に溶け込む屋根・壁面の修景

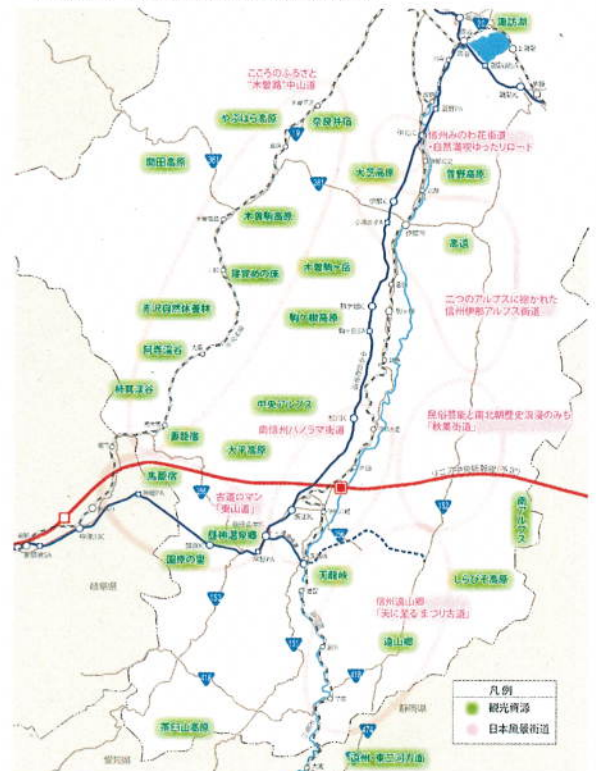


## 《基本方針4》 信州・伊那谷ブランドを強化し、発信する

信州・伊那谷の魅力や特徴を広く発信するため、様々な立場の人々が協力して取り組む。

- 取組1 6次産業、先端ビジネスの発掘・誘致・強化を進める
- 取組2 来訪者を惹きつける観光資源の発掘・強化を進める
- 取組3 リニア時代を見据えた観光振興策を進める
- 取組4 信州・伊那谷ブランドを発信するシティプロモーションを進める
- 取組5 リニア駅周辺整備と連携・補完する都市づくりを進める

〔伊那谷・木曾路の主な観光資源〕



〔6次産業化のイメージ〕

(信州6次産業化推進協議会HP)



〔二地域居住のイメージ〕



二地域居住とは、二つの地域に生活拠点を設けることを言う。ここでは特に、都会に暮らす人が、週末や一年のうちの一定期間を農山漁村で暮らす住まい方を想定。

(国土交通省 HP)

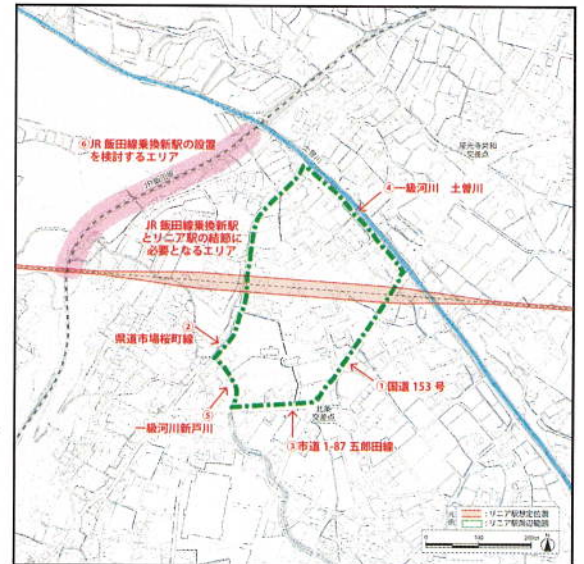


## 駅周辺整備を検討するエリア

長野県内のリニア駅は、飯田市上郷飯沼付近に設置が予定されています。また、駅西側に向けて上り勾配の傾斜地となっており、駅西端部にはJR飯田線が位置しています。

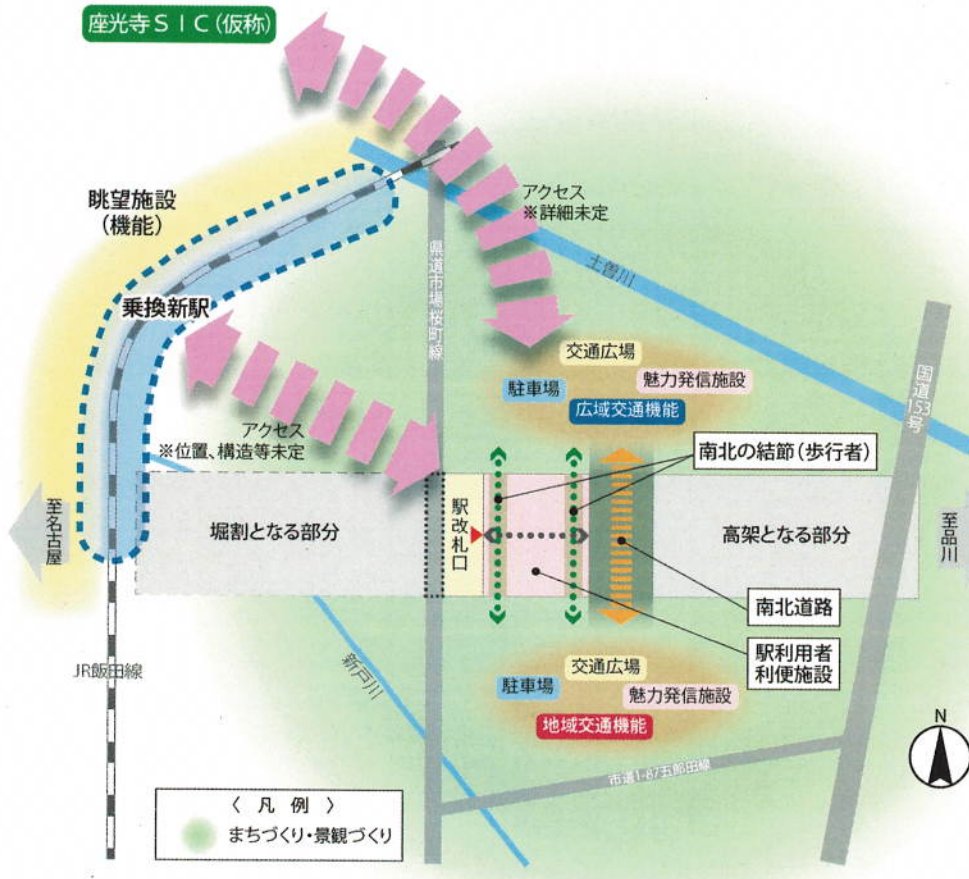
リニア駅周辺は、都市と自然が調和した住みよい環境づくりを目指すとともに、今ある良好な住環境や優良農用地を保全していくことが求められます。

そのため、駅のホームができる位置、地理的条件などを考慮し、右図の緑色で囲まれたエリア内で駅周辺整備を行うことを検討します。



## 駅周辺の配置イメージ

座光寺SIC(仮称)



### ①交通関係機能・施設

機能/施設	面積(m <sup>2</sup> )
バス関連施設	310
高速バス関連施設	230
タクシー関連施設	130
自家用車(送迎)関連施設	160
歩道設置	2,100
車道設置	520
環境空間	1,470
P&R駐車場(※1)	22,500
計(※2)	27,420

(※1)平面で整備した場合の面積(多層化によって縮小)  
(※2)国の指針に基づき算定した数値。なお、構造物や施設の配置など具体的な検討に伴い、変動する可能性がある。

### ②今後規模を検討する機能・施設

機能/施設	面積(m <sup>2</sup> )
交通広場の道路(街区道路)	規模を検討
駅利用者利便施設	
魅力発信施設	
計	—

### ③駅に近接して導入するか検討を要する機能・施設

機能/施設	面積(m <sup>2</sup> )
観光バス待機空間	駅近接配置の必要性と規模を検討
交流施設(※3)	
公園	
計	—

(※3)イベントスペース、コミュニティ施設等、人の交流に関する施設

### (①+②+③)

- 高架下利用面積
- = 駅周辺整備に必要な面積  
(駅周辺整備事業に伴い用地買収を行う面積)



## 実現に向けた今後の進め方

- 構想の実現に向け、広域的・長期的な視点を持って、地元住民、交通事業者、関係行政機関など多様な主体間の連携のもと検討を進めます。
- 多岐に渡る課題について、関係者が連携を取りながら円滑に進めるための体制をつくります(テーマごとに協議する場(複数)と、それらの議論の内容を調整する場)。

リニア駅周辺整備基本構想【概要版】

飯田市 リニア推進部

〒395-8501 飯田市大久保町 2534 番地 TEL:0265-22-5361 FAX:0265-22-5371